

[社 会]

# 地域教材で生徒の問いを生かし、「学びに向かう力・人間性」を育成しようとする社会科授業

－白根大風合戦を教材にした、資質・能力志向の歴史授業の実践を通じて－

清水 正太\*

## 1 研究の目的

平成29年度告示の中学校学習指導要領社会科解説編では、歴史的分野の目標として、三つの資質・能力の育成を挙げている。その内の一つの「学びに向かう力、人間性」では、「多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される・・・(中略)・・・国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。」を挙げている<sup>1)</sup>。そのため、授業ではこのような「資質・能力」(以下、本稿では、「資質・能力」は「学びに向かう力、人間性」を指す語として用いる。)を育んでいく必要がある。しかし、従来から社会科の歴史的分野に関わる指摘として、社会科は暗記教科であるというものがある。米田は、自身の担当する社会科教育法の授業内で、学生の社会科授業の印象として、「覚えることが多い」、「内容が難しい」という意見が散見されると述べている<sup>2)</sup>。筆者が担当したある中学校の社会科授業でも、同様の意見は多くみられた。また、社会科が好きである生徒の中にも、表1のように、「覚えるだけで良いから楽」、「暗記すればテストで点数が取れるから」という意見が見られた。このような生徒の考えでは、「資質・能力」を育むことは難しいだろう。なぜなら、歴史が好きであっても、この生徒のように暗記の満足だけに留まったり、道具主義的に歴史を扱ったりする意識では、「資質・能力」が身に付くような学習に向かったり、考えを表現したりする姿勢に至らないからである。よって、歴史の授業で、暗記のみに満足をするのではなく、「資質・能力」を育む実践を行うことは課題であるといえる。

では、どのような実践を行えば良いのだろうか。大野は歴史を学ぶ意味を「過去の歴史事象に疑問をもって向き合い、現在・未来に働きかける力である」として、子どもの意欲を引き出す授業の工夫や地域の教材を掘り起こして、自分とつながりのある歴史を学ぶ工夫を行う必要性を述べている<sup>3)</sup>。また、宇都宮は内容志向の歴史授業から転換して、「資質・能力」を育成するために、資質・能力志向の歴史授業を作る必要がある。そのために、子どもの問題・関心から問いを設定し、問いに即した史資料から読解した歴史的事実を解釈し、歴史像を構築、他者との協働で再構築する必要があると述べている<sup>4)</sup>。また、その問いは歴史的探究を可能にするものでなくてはならず、教師の教材研究と授業構成も大切であると指摘している。さらに、小林は歴史の授業で、生徒が自分事として学ぶ起爆剤は地域教材であると述べている<sup>5)</sup>。

これらを踏まえると、地域教材を用いて、生徒の興味関心を生かした問いを設定し、自分と繋がりがあがる歴史を学ぶ資質・能力志向の歴史授業を行うことで、暗記のみで満足する授業を越えて、「資質・能力」を育むことができるのではないかと考えた。本稿では、上記を明らかにすることを目的とする。

## 2 研究の方法

本研究は、筆者が以前勤務した新潟市南区の中学校3学年の実践を対象として行う。この実践では、地域の教材として白根大風合戦について扱う。その理由として、大風合戦は地域全体が盛り上がりを見せる行事であり、生徒も大風合戦に参加をして将来の担い手として活動している。そのため、自分事であり、興味関心を高める上で適切であること。また、図1が後述のように単元の学びを深める上で核となる社会的な事象だと考えられるからである<sup>6)</sup>。大風合戦に関する先行実践について、峯岸は、白根小学校の総合的な学習の時間や道徳の時間における、大風合戦についての調べ学習や携わる人々の気持ちの共感的理解から伝統を守る態度を育成した実践を紹介し、その有効性について述べている<sup>7)</sup>。白

\*新潟市立巻東中学校

根小学校の実践では、主に現在の大風合戦の絵柄の調べ学習や風製作体験、現代で大風合戦の風揚げに携わる人々の心情を学ぶ。つまり、先行実践は主に今の風合戦に焦点を当てた教材化が図られており、過去の事象である図1についての教材化は行われていない。また、図1を教材として、中学校社会科の授業に位置づけた実践は管見の限り見当たらない。よって、本研究の実践は、南区の中学生の興味・関心に則した大風合戦の、小学校の学習や普通の生活で知ることのできない過去を歴史的事象として教材化し、社会科の歴史授業という教科指導で扱い、「資質・能力」を育もうとしているということに新規性がある。また、本研究における「資質・能力」が育成できた姿を以下と定義する。

「単元を通して、教材から学んだことを基に、白根大風合戦のために尽くした人々と現在に伝わる風合戦を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めて、将来の風合戦のために行動しようとしている」

この定義は、前述の「資質・能力」の目標にある文言を、本実践に当てはめたものである。このような様子は、一般的な暗記だけで満足しては見取ることができない。この姿が見られるか、抽出生徒2名の事前・事後アンケートと振り返りの質的変容から判断する。2名としたのは紙幅の都合である。抽出生徒は「歴史の授業は好きですか」という問いに肯定的に答え、かつ、その理由が暗記学習であると回答した生徒を抽出した。本研究では、実践を通してこのような生徒の認識が変容し、暗記のみで満足することなく、歴史の授業を通して定義した「資質・能力」を育むことができるかを研究の対象とする。また、そのための手立てとして、以下の(1)、(2)を行う。

(1) 戦時中の風合戦の写真を地域教材として、「ズレ」から生徒の興味関心に則した学習課題を設定する。

生徒の興味関心に則して、資質・能力志向の授業を行うために、本実践では、図1の写真を用いて課題設定を行う。北は、生徒に疑問を持たせるために、「ズレ」を使って意外性を生み、疑問や問題意識を高める手法を提唱している<sup>8)</sup>。本実践では、北の「時間的なズレ」、「意外性のあるズレ」を用いて学習課題を設定する。具体的な方法については以下の通りである。



図1：戦時中の役者組の風

- ・「時間的なズレ」・・・現在の風と異なり、ナチスや日本の国旗が付いているのはなぜか。
- ・「意外性のあるズレ」・・・なぜ、白根の行事にナチスの国旗が載っているのか。また、ユダヤ人虐殺などを起こした国の国旗を入れているのはなぜか。

これらに気付くように、現在の風と当時の風の違いに着目させたり、起きた社会的事象の意味と比較して意外性に気付かせたりする。それによって、歴史的な分野における適切で、生徒の興味関心に則した問いを学習課題として設定し、ただ社会的事象を学ぶだけでなく、繋がりを感じて意欲的に追究できるようにする。

(2) 単元を通して、資質・能力志向の歴史授業を構成するための工夫

前述のように、「資質・能力」を育成するために、資質・能力志向の歴史授業を行っていかなければならない。さらに、単元の中で、探究すべき課題にするためには、この図1を解決する意味のある教材として、単元全体を学んで解決するような単元デザインを意識する必要もある。本実践では、前述の宇都宮の論を参考にして筆者が設定した、「事実解釈」、「歴史像構築」、「協働再構築」という学習の流れで単元をデザインする。「事実解釈」では、図1の疑問を解くために、毎時間の授業で歴史的背景を学ぶ。それによって、歴史的な事実の解釈を行い、自らの歴史認識を形成するための知識を蓄積する。「歴史像構築」では、「事実解釈」を基に、単元の学習課題を自分の言葉でまとめる。最後に、「協働再構築」では、パフォーマンス課題を設定する。内容は、近隣の資料館に図1を説明した資料をおくために、区長と資料館の館長にレポートを発表し、評価をいただくというものである。この活動により、知識が統合されると共に、他者と多角的に考えることでより多面的な考えをもち、行動していこうという意欲を多くの生徒がもてるようになる。このような単元デザインの工夫で、「資質・能力」を意図的に育んでいく学習過程を組織する。

### 3 実践の実際

(1) 生徒観

本実践は、令和5年度のある中学校3年生(全98名、長期欠席7名)に対して行ったものである。表1は事前アンケートである。学年全体として、社会科の歴史的分野の授業には肯定的な感想をもっていることが分かる。一方で、その肯定的な意見の中にも、抽出生徒のような「覚えるだけで楽だから」、「暗記で点数が取れるから」

表1：3学年に対するレディネス調査

Qあなたは歴史の授業が好きですか？(単位：人)			
①はい	②まあまあはい	③まあまあいいえ	④いいえ
40	42	9	0
生徒A = ①：覚えるだけで楽だから			
生徒B = ②：暗記すればテストで点数が取れるから			

という理由が見られる。本実践を行い、抽出生徒の変容を見取ることで、実践が効果的か確かめたい。

## (2) 教材観

本単元は、学習指導要領「C近代の日本と世界」の「(1)近代の日本と世界」の中で、第二次世界大戦前後の歴史を扱う<sup>9)</sup>。それによって、世界大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させることが必要である。その際、戦時下の国民生活を扱う授業では身近な地域の事例を取り上げて、平和な生活を築くことの大切さを理解させることが必要であると指摘されている。本実践では、身近な地域の事例として図1が撮影されたことを単元の課題として実践を行う。図1は戦時中に撮影されたもので、白根の人々が戦争下の物資不足や戦争の激化等で風合戦の継続が危ぶまれる中で、三国同盟を結んだナチスの国旗を掲載して、風を揚げれば表向きは国策に沿っていると見なされる。当時の軍国主義的な社会情勢を巧みに利用して、白根大風合戦を是が非でも開催したい白根の人々が、戦意高揚のための行事であるという建前で、本心を隠して継続させようとした工夫から図1の風が揚げられた<sup>10)</sup>。この工夫の意図を理解するためには、単元を通して第二次世界大戦前後の歴史を学び、得た知識を活用して問いを追究する必要がある。なぜならば、より歴史的な繋がりを意識して考察することができ、歴史像を構築しやすくなるからだ。また、図1の問いを解くためには自分の考えを表現する必要もある。その表現の場面に適切なパフォーマンス課題を設定すれば、活動を通して風合戦を大切に感じたり、当時の白根の人々の努力を受け継ぎ、現代や未来にも繋げようとしたりする考えが生まれるだろう。また、生徒は、新型コロナウイルス感染症により、風合戦が中止になった経験をしている。その経験と照らし合わせ、当時の白根の人々の気持ちに触れれば、暗記学習に満足するだけでなく、より実感を伴って理解ができるとともに、本実践の定義で目指す姿に近づけるのではないかと考えた。よって、この教材は単元を学ぶ上で適切であるといえる。

## (3) 単元の実践

### ① 単元名 「第二次世界大戦と白根大風合戦」

### ② 単元の目標

第二次世界大戦と白根大風合戦について、教科書や資料を用いて、調べたり、他者と考えを共有したりする活動を行いながら、第二次世界大戦と当時の白根の人々の工夫を追究する活動を通して、戦時中の白根の人々の努力を知ったことで、白根大風合戦を大切に感じたり、継続させるために行動をしようとする自分の言葉で表現している。

### ③ 単元(題材)の指導計画(全15時間)

時・単元構成	「各時間の学習課題」：【生徒に身に付けてほしい学習内容】
1時	「単元の学習課題の設定の際に、クラス全体での疑問を生かして、学習課題を設定し、自分の考えをもつことができる。」  単元の課題：「なんで、ハーケンクロイツが1940年の風に入っているのだろうか？」
2～10時 「事実解釈」	「なぜ、国際協調の流れからナチスが台頭したのか」：【世界恐慌と各国の経済政策】 「世界恐慌の頃の日本はどのような様子だったか」：【昭和恐慌と外交の行き詰まり】 「満州事変が起きて、日本の政治はどう変化したか」：【国際的な孤立と軍部の台頭】 「なぜ、国民の生活が大正時代と大きく変わったのか」：【日中戦争と軍国主義化】 「第二次世界大戦はどのようにして起きたのか」：【開戦の経緯と三国同盟】 「なぜ、戦力差のあるアメリカと戦争を始めたのか」：【開戦の経緯と日米の考え】 「戦争はどのように進展したのか」：【枢軸国を中心とした戦争の推移】 「戦争中の国民はどのような生活をしてきたのか」：【戦争による国民生活の変化】
11時 「歴史像構築」	「なんで、ハーケンクロイツが1940年の風に入っているのだろうか」：【「事実解釈」で学んだ知識を生かし、大風合戦に関する資料を読み、白根の人々の思いや存続の努力を理解する】
12～15時 「協働再構築」	「パフォーマンス課題：白根大風と歴史の館に置く、戦時中の風合戦のパフレットを作ろう」：【canverを用いて、パフォーマンス課題に取り組み、発表する】

## (4) 単元の実践の様子

### ① 1時間目の様子

1時間目は、単元の導入における場面で、手立ての(1)を用いて、単元の学習課題を設定した。まず、筆者が図1を提示して、「普段の風合戦と比較して、疑問に思うことはありますか」と発問をした。生徒はすぐに風上部の国旗に着目して、「今とは違って、広告ではなく国旗が入っている」と疑問を抱いた。さらに、揺さぶり発問で「これは、ナ

チスドイツの国旗ですが、それを聞いて感じることはありませんか」と問い、自分が思ったことを問いとしてあげさせた。それにより、多くの生徒がナチスのユダヤ人虐殺などの事実を踏まえて、「なんで、地元の祭りにナチスの国旗が載っているのか、また、当時の白根の人々はそれを支持していたのか」という疑問を問いとしてあげた。学級であげられた生徒の問いを生かして、単元の学習課題を設定した。課題設定後、各自で単元の課題への予想を立てた。

### ② 2～10時間目の様子 「事実解釈」

「事実解釈」の場面では、教科書の内容<sup>11)</sup>を基に、各時間の学習課題について学んだ。生徒は、振り返りシートの「①」に本時で学習した内容、「②」に単元の課題解決に必要なと考えられる内容をまとめた。図2は抽出生徒Aの振り返りシートの一部である。図2の振り返りの記述から、生徒は、【生徒に身に付けてほしい学習内容】で挙げた内容についておおむね理解して、歴史的事象の事実を解釈していることが分かる。他の振り返りにも【生徒に身に付けてほしい学習内容】を理解したうえで、歴史的事象の事実を解釈している記述が見受けられた。また、抽出生徒Bについてもほぼ同様の内容が見られた。

I・2時間目：世界恐慌とファシズム P222～225	
①	世界恐慌から経済混乱が起った。各国で不況対策が行われるようになったが、自分達だけが唯一軒が有り難いばかりで自国を儲けにしている。
②	何に入っているのは、敵対視しているからだと思う。このまよいと尊敬を呼ぶのは、このまよいて思った。自分のことしか考えようと思った。
I0時間目：戦時下の人々 P236～237	
①	国民は戦争中心の生活にしている。子供のころから戦争意識をもちこむことで戦争が起きるようになる。可成り勝つためだった。
②	戦争に勝つためには、兵隊もいないといけない。子供は戦争意識をもちこむ。自分達だけが世界を儲けようと思った。

図2：抽出生徒Aの各時間の振り返りの一部

よって、単元における歴史的事象の「事実解釈」についてはそれぞれの生徒が概ね至っていたと考えられる。

### ③ 11時間目の様子 「歴史像構築」

「歴史像構築」の場面では、前時までの「事実解釈」で生徒が身に付けた知識を応用して、白根大風合戦に関しての4つの資料から分かることをまとめた。まとめる際には、4人班で資料を分担し、クラゲチャートにまとめていった。多くの生徒は、抽出生徒Aの記述と同様に、「事実解釈」の場面で、第二次世界大戦前後の世界や日本は、悲惨な総力戦になり、多くの被害が生まれたことを捉えていた。その前提の知識を基に、資料を見ることで、歴史的事象の背景を生かして資料から事実を収集し、班で協力して「歴史像構築」の活動を行った。その後、クラス全体に発表を行い、単元の学習課題に対するまとめを個人で記入した。抽出生徒のまとめは表2の通りである。生徒は、学級内で複数の「歴史像」を聞くことで、自分の思考に還元し、「歴史像構築」ができていた。

表2：抽出生徒の単元のまとめ

生徒A	総力戦の戦争中でも風合戦を継続したいという思いで、戦争を盛り上げているように見せて国民と政治を味方にした。風に対する風当たりが強い中でも、白根の人の風愛で工夫したことにより国旗が入っている。
生徒B	日中戦争から太平洋戦争へと戦争が盛り上がり、風を続けるのが難しいけど、戦争第一の国づくりをした日本の意識を利用して、白根の人は風合戦が大好きだからドイツ公認の大会アピールをすることで乗り切ろうとした。つまり、戦争のためという体で何とかして風合戦を続けたかったから国旗が入っている。

### ④ 12～15時間目の様子 「協働再構築」

「協働再構築」の場面では、白根大風と歴史の館という社会教育施設に展示されている資料を提示した。多くの生徒が、現在の展示に加えて、より詳細な説明をした方が資料の意味が伝わるのではないかと発言した。その発言を受けて、パフォーマンス課題を提示した。パフォーマンス課題の条件として、4人班で「canver」を用いて資料をA4表裏で作成すること。また、内容は「展示されている画像の紹介」、「前後の歴史的背景」、「写真の風解説」、「レポートを作成した感想」とすることを確認した。さらに、3クラスから各2班を投票で選び、選ばれた6班は区長と館長にレポートの魅力を発表し、許可が得られれば白根大風と歴史の館に展示してもらうことを伝えた。生徒は、12・13時間目に作成作業を行った。どの生徒も、自分の構築した「歴史像」を他者と議論しながら「協働再構築」することで、より幅広い視点からまとめを行うことができた。14時間目は各クラスでレポートの発表を行い、代表の2班を決めた。抽出生徒Aの班は落選、抽出生徒Bの班は図3の資料を作成し、当選した。落選した抽出生徒Aの班は落胆した様子を見せていたが、「他の班の発表をもっと聞いて、より深く知りたいです」という発言をしていた。「協働再構築」の過程で、他者の歴史の捉え方に興味関心を抱いた状態で、15時間目の発表を迎えた。

15時間目の発表では、代表の班が区長と館長に白根大風と歴史の館に展示してもらえるかどうかの判定を行う発表を

した。その際に、区長と館長と同様の評価シートを生徒も記入し、参観した。どの班も意欲的に発表を行い、区長と館長から肯定的な評価をいただいて、自分たちの歴史像が認められたことを喜んでいました。また、生徒は、他の班の様々な意見を聞くことで、図1の教材に対する多様な歴史像を獲得し、最終的に自らの歴史像を構築しようという様子が見られた。発表の最後には、館長からのお礼の言葉と、全ての班の発表が素晴らしかったので白根大風と歴史の館に

資料として展示することを許可していただいた。区長からは、コロナで中止が決定する前にも、現在の白根大風合戦に参加している若い世代の人たちが継続に向けて真剣に努力していた。コロナ後に白根大風合戦が再開したことも、今の若い人たちの風が好きだという思いである。中学生もこの学習を生かし、風合戦を守ってほしいというお言葉をいただいた。さらに、図4のように白根大風合戦を広めるために広報大使として南区の缶バッジを送られた。

## 4 成果と課題

### (1) 実践の成果

本実践を通して、定義した「資質・能力」が抽出生徒に見られるか、授業中の成果物や振り返りのアンケートから明らかにする。

まず、実践後には生徒の意識は表3のように変化した。本実践を通して、抽出生徒Aは実践前の「暗記だけで楽である」という意見から、「暗記に加えて、歴史の繋がりや人の思いも学ぶ必要がある」という意見に変容している。抽出生徒Bは「暗記だけでテストで点数が取れる」という意見から、単元を学んで感動したことから、「知識に加えて、学んだことを生活に生かす」という姿勢が見られる。これらの生徒の変容から、暗記だけでなく、人の思いや生活に生かすことが大切であるという「資質・能力」が育まれたことが分かる。

また、授業後の振り返りのアンケートは表4の通りである。振り返りの下線部に着目すると、生徒Aは白根の先人たちの努力で風合戦が戦争中でも続いたことに敬意を表しており、熱い気持ちを大切だと感じている。生徒Bは白根の先人たちの思いに共感を抱き、当時の人々の工夫と努力を「かっこいい」として評価しており、引き継ぐのが大切だと感じている。これらの意見から、定義の「資質・能力」の下線部は育まれたといえる。また、波線部の記述に着目すると、生徒Aは、先人たちの気持ちを大切にしたいという思いを持っており、自分も引き継いでいくことが必要だと感じている。生徒Bは、単元の学びを通して気持ちが変化したことで、自分が将来のために努力することに加えて、レポートを読んだ人に向けても風合戦のことを大切に思っていて支えてほしいと記述している。これらの意見から、定義の「資質・能力」の波線部は育まれたといえる。生徒は、資質・能力志向の授業で学習をしたことで振り返りのような考えに至り、

## 3分で分かる 白根大風合戦 の深い歴史

### 昔の風と今の風の違い



左の写真は第二次世界大戦中のものでナチスドイツの国旗であるハーケンクロイツが入っています。その理由をこの時代の歴史を振り返りながら紹介していきます。



### 不況から対立へ

世界は、第一次世界大戦の反省を生かして、世界中の国が協力したり、平和を目指したりする空気がありましたが1929年に世界恐慌が起き、それまでの平和な世界の崩れがりは崩れました。不況から抜け出すために各国はそれぞれ対策をとり、その違いから米英仏と日独伊の2つの勢力は対立します。日や独は中国(満州)、他国を侵略することで不況から脱出できると考えていてそれが盛り上がり日中戦争に突入しました。

### 日中戦争の長期化

資源が少ない日本は、国の全てを戦争に注ぎ込む総力戦になり長期化していき国民の負担はとて大きいものになりました。それにより、風合戦の継続が難しくなります。それから1939年には第二次世界大戦が始まり、はじめドイツが優勢だった為、日本軍はドイツと手を結びました。1941年には、日本も太平洋戦争に突入しました。それにより、女性や子供も総動員で戦争へ行った為、死者も多く、物資も無くなっていきました。

### 先人の熱い想いとハーケンクロイツ

日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争と、戦争が激しくなるにつれて、風合戦に対する風当たりが強くなり、開催しにくくなったので風にハーケンクロイツを入れることでドイツに認めてもらった、戦争を応援する合戦という形で開催を続けることができました。

### 感想

今回の歴史の学習を通して、戦争の悲惨さや日常まで変わってしまう恐ろしさや気付きました。そんな恐ろしい世の中でも、白根の先人達は白根大風合戦を興し、継続のために、いろいろな工夫をしたことがわかりました。大変な時にも、どうにかして努力して合戦を継続しようとした白根の人達は素晴らしいと思います。また、先人達のおかげで、今も風合戦ができることに感謝しなければなりません。だからこそ、白根の先人達の思いを私たちが引き継ぎ、今も強く伝統を継いで努力をしなければなりません。

そこで、私たちができることは、このレポートを多くの人に読んでもらい、歴史の荒波の中で、白根の先人達が努力して続けてきたことを伝え、見た人に感動してもらい、大切に思ってもらう。それによって、自分たちが続けて行くだけでなく、多くの人に支えられたり、輪に入ってもらうことが大事だと思います。それが、私たちの「ミッション」だと思います。もし、また続けることが難しくなったときに、このレポートが役立てば良いと思います。

この学習を通して、私たちの学びが地域の資源になり、地域の元氣につながる。その元氣が大風合戦にも繋がれば良いと思います。改めて、この学習で歴史の流れを学び、歴史を生かして考えることの大切さと大風合戦の素晴らしさに気付くことができました。

図3：抽出生徒Bの班の作品



図4：発表会の様子

表3：実践後の生徒アンケート

Qあなたは歴史の授業が好きですか？(単位：人)			
①はい	②まあまあはい	③まあまあいいえ	④いいえ
70	19	2	0
生徒A = ①：暗記も大切だけど、それ以上に歴史の繋がりとか、人の思いも学ぶことが大切だと思った。 生徒B = ①：今回の単元を学んで感動した。これから、知識を得るだけでなく、学んだことを生活にも生かしていきたいと思った。			

表現していると推察される。よって、生徒には暗記に留まらず、「資質・能力」が育まれ、身に付いたと考えられる。

以上より、地域教材から生徒に身近な問いを設定し、資質・能力志向の歴史授業を行うことで、「資質・能力」を育成することができたと考える。これは、手立て（1）で、「ズレ」を用いて生徒に身近かつ、適切な地域教材を単元の課題として設定できたことで、生徒の興味関心を生かして追究できたこと。および、手立て（2）を用いた授業を行うことで、暗記のみの学習に満足させず、「資質・能力」を身に付けるような学習過程を行うことができたからであると考える。また、振り返りの「歴史の繋がり」という記述から、本研究のように「資質・能力」を育むための地域教材は、本教材のように生徒の興味関心を引き、学びを深めるうえで、核となる社会的事象、かつ、探究に耐え得る教材である必要があることが明らかになった。上記の要件を包含した図1を教材化できたことも成果であるとする。

表4：抽出生徒の単元振り返り

生徒A	歴史が進み、戦争がもっと厳しくなったのに、白根の人たちは風が大好きで伝えたいという思いで工夫をして、オリンピックが中止した後も長く続けたのは凄すぎる。総力戦で国民生活が苦しい中でも、戦争を利用してまで風合戦を続けた。「ドイツ公認」という形が歴史と関連深し、身近な風合戦が歴史と関係していて驚いた。コロナの時、若い人たちが「続けたい」と言ったのは今も昔も風が大好きで続けたいという思いを感じた。この熱さが伝統を引き継ぐ上で大切だと思う。自分も大切に引き継ぐことが必要だと思った。
生徒B	白根の風の秘密と世界の歴史が繋がっていることを知って、とってもとっても感動しました。レポートに書いた思い（筆者捕捉：戦争という悲惨な恐ろしい世の中でも、白根の先人が風合戦を愛して、歴史の流れに逆らっても努力をしたことは素晴らしいことである。それを引き継ぐ必要があるのだから、自分が参加するだけでなく、レポートを読んだ人に大切に思ってもらい、輪に入ってもらい支えてもらいたい。地域全体で盛り上げたい。）を大人になっても忘れないようにしたいです。戦争中、愛する風合戦に悩んでいるなかでも、自分たちの平和と日常を取り戻すために闘う姿がかっこいいと思いました。〇〇（生徒名）の班は「今以上に風に愛があった」と言っていたけど、コロナの時の話を聞いたら今も負けてないと感動しました。今回学んで風に対する気持ちも変化したので、伝統が途切れないように次の世代に伝えていきます。

## (2) 実践の課題

本実践で、課題として挙げられるのは以下の2点である。

1点目に、研究対象の限定性が挙げられる。本稿では、歴史が好きだが、暗記だけに意味を見出している生徒を対象に研究を行ったため、歴史が嫌いな生徒等に有効かには疑問が残る。今後、対象を変えて研究を行い、有効性について明らかにしていく必要がある。

2点目に、教材の特殊性がある。本教材を同様の方法で他の学校で使っても、成果は期待できないだろう。今後は、本研究で得た成果を生かして、単元を通して扱うことを踏まえた上で、他地域の教材を開発すること。また、この教材を他地域で用いるとしたら、どのような方法が考えられるかを研究していきたい。

## 註・引用文献

- <sup>1)</sup> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版、2018年、p.86
- <sup>2)</sup> 米田豊「子どもと共に関連する歴史事象を少し長い射程で探究～長い射程で「歴史を大観する」学習のより一層の充実を～」、『教育科学社会科教育』59巻9号、明治図書出版、2022年、p.10
- <sup>3)</sup> 大野一夫「歴史授業の創造的実践」、二谷貞夫・和井田清司編著『中等社会科の理論と実践』学文社、2007年、pp.34-35
- <sup>4)</sup> 宇都宮明子「歴史を探究し、表現する歴史授業への転換に向けて」、『教育科学社会科教育』59巻9号、明治図書出版、2022年、p.8
- <sup>5)</sup> 小林朗「生徒の問いを引き出す地域史教材の授業」、『教育科学社会科教育』57巻9号、明治図書出版、2020年、p.77
- <sup>6)</sup> 白根風合戦協会『白根の風の全て熱き戦い300年』富士印刷、2006年、pp.53-61参照。図1はp.59に掲載。
- <sup>7)</sup> 峯岸由治「大風合戦を教材とした学習指導の構成と関連：新潟市立白根小学校の総合活動・道徳授業実践を手がかりに」、『和文化教育研究紀要』9号、2014年、pp.14-18
- <sup>8)</sup> 北俊夫『だれでもできる社会科学習問題づくりのマネジメント』文溪堂、2016年、p.66・68
- <sup>9)</sup> 前掲書1)、pp.116-117
- <sup>10)</sup> 前掲書6)、pp.58-61、また、授業で用いた資料は該当部分から作成。本稿では、紙幅の都合で掲載できていない。
- <sup>11)</sup> 矢ヶ崎典隆ほか『新しい社会 歴史』、東京書籍、2021年の教科書を用いた。